

ICSW

ICSW グローバル・コーポレーション (国際社協ニュースレター)

2008年7月

【概要】

- ICSW 新会長～クリスチャン・ロレ氏
- ICSW 新副会長～チャールズ・アビィ氏
- 運営委員会
- 監督・顧問評議会
- ICSW の方向性

ICSW 新会長～クリスチャン・ロレ氏

フランスのクリスチャン・ロレ氏が ICSW の会長となった。会長に就任するに当たり、ロレ氏は ICSW の 80 年にわたる豊かな歴史を誇りに思うと語った。

ロレ氏は、社会政策の分野における豊富な経験を有した身で会長となった。彼は国立公衆衛生学校のディレクターを 7 年間務め、次いで社会問題検査官の長に指名され、これも 7 年間務めた。ヨーロッパでは、公衆衛生学校連盟のヨーロッパ地域会長を務めた。ロレ氏は、ブラジル、インドネシア、モロッコなどの開発途上国における、社会保護に関するいくつものミッションを引き受けている。

今回会長職を引き受けるに当たり、ロレ氏はまずソルヴェイグ・アスクジェム女史に対して賛辞を送った。

「彼女は、困難な時期を乗り切った素晴らしい会長でした。北欧的な冷静さと真の意味での効率性を以って、彼女は組織の建て直しに尽力しました。」

「ICSW は、社会問題に関する世界的なフォーラムとして 1928 年に設立され、今や単なるフォーラム以上のものに成長しました。私たちは、社会正義、社会福祉、そして社会開発を促進する、という世界レベルでのミッションを担っています。今日私たちは、経済問題が最も支配的な世界問題になってしまうというアンバランスな状況に直面しています。ごくわずかな世界的組織だけが、経済発展と社会開発を結びつけようと奮闘しています。ILO 然り、そして ICSW 然り、です。」

「ICSW は、貧困と戦い、社会開発を促進するにおいて、そのリーダーシップを強化しなければなりません。私たちは、コペンハーゲン宣言で設定され、117 の政府首脳から

の公約を取り付けた理念のための提唱を継続していかなければなりません。私たちのミッションは、社会福祉分野において活動している NGO を強化するという責務を私たちに課しています。私たちはこうした組織の間に強いつながりを作っていかなければなりません。また、私たちは市民社会の中に、国レベルでの、そして政府間組織間でのネットワークを構築していかなければなりません。私たちはすでに世界の様々な地域で、このようなロビー活動の成功を経験しており、この努力を更に一層推し進めていかななくてはなりません。」

ICSW 新副会長～チャールズ・アビィ氏

チャールズ・アビィ氏は、トゥールでの総会において副会長に選出された。アビィ氏はガーナ人である。彼は、2004年から中央・西アフリカ地域会長を務め、ICSWを代表して、国連、アフリカ連合、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）などの会議に参加した。

アビィ氏は、副会長を引き受けるに当たり、以下のように述べている。

「市民社会の声と行動は、歴史上のこの時点において極めて重要です。ICSWはその三層構造を通して、重要かつ世界的なリーダーシップを提供する存在であると見なされるべきです。ICSWは、経済政策が社会政策と連携して動いていかななくてはならない、ということの世界に知らしめる努力を続けていきます。」

「ICSWは、世界中のあらゆる場所での個々の事情から見たニーズを認識する一方で、社会福祉、社会正義、社会保護、そして社会開発（社会的責任の構成要素）のほどよい調和を擁護すべきです。」

運営委員会

会 長：クリスチャン・ロレ（Christian Rollet）、フランス
財務担当：マリーケ・J・スティーンベルゲン（Marijke J. Steenbergen）、オランダ
副会長：チャールズ・アビィ（Charles Abbey）、ガーナ
メンバー：朴宋三（Jong-Sam Park）、韓国

監督・顧問評議会

会 長：クリスチャン・ロレ
財務担当：マリーケ・J・スティーンベルゲン

地域会長：中央・西アフリカ	Emmanuel Komlan Dzifanu Agbemavi
東・南アフリカ	Judith Kaulem
南アジア	Charles Jayasinghe
南東アジア・太平洋	Michael Raper
北東アジア	白秀雄
ヨーロッパ	Eva Holmberg-Herrstroem
ラテンアメリカ・カリブ	Danilo Santos de Miranda

新しい定款の元、最初の運営委員会及び監督・顧問評議会が、第 33 回世界会議の終わりに発足した。地域に関する役職指名については、地域のニュースレターを参照されたい。

第 33 回 ICSW 世界会議閉会式：ICSW の方向性（デニス・コレル常務理事）

本会議では将来を見据える一方で、社会福祉および社会開発における我々のこれまでの成果を認めた。また、ソーシャルワーク、社会保護および社会開発の分野における将来を検討した。

ICSW は、コペンハーゲン世界社会開発サミットの理念と公約についての重要な監督者であるといえる。コペンハーゲン・サミット前年の 1994 年、ICSW はタンペレ宣言を採択した。タンペレ宣言の理念の多くが、コペンハーゲン公約に反映されている。タンペレの理念には、生産的な雇用、社会的統合、プライマリー・ヘルス・ケアへの普遍的なアクセス、女性の権利および機会の平等、そして子どもおよび障害者の権利が含まれている。

ICSW は、3 つのレベル—世界、地域、国—で動いている。ICSW のロゴは、我々が活動している範囲とレベルを表すものである。



水平の線は、国際ソーシャルワーカー連盟および国際ソーシャルワーク学校連盟を含む親しい国際組織との活動を表す。2010 年の香港における合同会議では、我々の協力

関係を示すことができるだろう。

垂直の線は、国連を含む政府 - 世界レベル、政府や国の地域グループとの活動を含む地域レベルを通しての我々の活動を表わす。

中央には、人々への、あるいは社会開発への関心を表す輪を配している。

ICSW 世界会議のフォーマットも進化した。全体会議は、世界の識者が新しい知識を提供する場となり、シンポジウムは、地域レベルや世界レベルで新しいアイデアを持ち寄り、セオリーや経験を探索したりする場となる。またワークショップは、国レベルや地域レベルでの問題について、スピーカーと参加者が双方向のやり取りを行うよい機会となる。

テーマは日替わりだが、これは参加者が、全体会議、シンポジウム、そしてワークショップを通して、一つのアイデアを容易に追うことができるよう、また首尾一貫性を感じられるようにするためである。会議参加者の範囲は、世界レベルで活躍する人から地元で活動する人まで幅広く、あらゆるレベルにおける活動を網羅することができる。どのレベルも等しく重要であり、どれかが他のものよりも勝るということはない。地元レベルは一番の基本である。このレベルで働く人々は、毎日のように、世界の、地域の、そして国の政策の結果として生じた状況と向き合っている。例えば、(ICSW の頼もしい支持者である) 救世軍は、人身売買についてのワークショップを開催した。救世軍のワーカーたちは、路上で起きていることの悲惨さを目にし、その結果、人身売買対策に関する研修パッケージを開発した。

それでは会議の間の ICSW の活動に戻ることにしよう。

国レベルでは、我々は、メンバーシップの基礎～各国会員団体 (NMO) ～となる、強力な各国上部機構を作り上げることに焦点を当てている。ICSW は、メンバーシップの拡大を望んでいるわけではなく、各国会員団体としての参加を希望してきた団体の適正資格については、注意深く検討する。各国会員団体は、各国につき 1 団体のみを認めている。

ICSW には、NMO のための研修プログラムがある。これまでに南・東アフリカの 17 カ国の常務理事を対象とした研修を行っており、今後南東アジアでも行なう予定である。この研修には、以下のものが含まれる。

* NMO の役割

- * 各国協議会のメンバーシップ
- * 理事会及びスタッフの役割
- * 価値観から政策へ～組織としての価値を定め、重要事項に関する政策を練る
- * 国および地域の政策アジェンダに影響を与える

地域レベルでは、社会政策と経済政策が国境を越えて錯綜していると認識している。我々は政府の地域グループ化に取り組んでおり、着々と成功しつつある。南・東アジアでは、人身売買に関する国ごとの分析が出ている。我々は南・東アジアにおける社会保護についてのペーパーを出した。ICSW は、よきガバナンス（参加型民主主義プロセス）の分野で黒海地域の政府と協力している、黒海 NGO ネットワークの仕事を後援している。ヨーロッパ地域では、我々はソーシャル・プラットフォームの基幹となるメンバーである。南アフリカでは、南部アフリカ開発共同体 NGO 協議会と協力している。この最後の例及び黒海地域での例は、いずれも既存の NGO 組織を支援し、決して競合はしないという ICSW のポリシーを表したものである。競合はエネルギーやリソースの無駄遣いに他ならない。

世界レベルでは、新旧数多のパートナーシップを誇る。我々は国連経済社会局と近しく仕事をしている。世界レベルで取り入れてもらいたいと願う政策についての提唱運動を行い、これを達成するために連立を組む。よい例が、ILO の完全雇用およびディーセント・ワークについてのキャンペーンである。これはコペンハーゲン公約の一部であるが、ミレニアム開発目標が設定されたときにこぼれ落ちてしまったものである。我々は『グローバル・ソーシャル・ポリシー』誌を応援し、「南からの声」のセクションに寄与している。我々はまた、国際ソーシャルワーカー連盟および国際ソーシャルワーク学校連盟と共に、『国際ソーシャルワーク』誌の共同オーナーでもある。この 2 誌については、ICSW の公約の一つである知識の拡散を反映したものと言える。この公約は、我々の月刊ニュースレター『グローバル・コーポレーション』およびウェブサイトを通して実践されている。

政策展開は ICSW の主要目的のひとつである。経済と社会は、1 枚のコインの裏表をなすものであり、経済はあくまで手段であって到達点ではないのである。

今回の会議は、過去と未来の両方を見つめるものであった。ICSW の 80 年にわたる歴史をまとめたフランス社協発行の『国際社会福祉協議会～80 年の歴史 (International Council on Social Welfare 80 Years of History (1928-2008))』の発行は、我々が過去を振り返るのに大いに役立った。フランス社協ならびに主たる執筆者であるキャサリン・ロレ教授、クリスティアヌ・ナントワ＝ピジョン、そしてクリスチャン・ロレ氏には

大変お世話になった。

本会議は極めて刺激的な会議であった。全体会議およびシンポジウムは極めて高水準であり、また私が参加した限りでは、ワークショップは参加者の熱意と積極的な参加が目立っていた。

本ニュースレターの内容の引用・転載は、出展を明らかにする限り自由です。本ニュースレターに掲載された見解は、必ずしも ICSW の方針であるとは限りません。

編集：ICSW 常務理事 デニス・コレル

ICSW 連絡先

ICSW C/- MOVISIE PO Box 19129

3501 DC Utrecht

Netherlands

Email: icsw@icsw.org

Tel: +31 30 789 2226